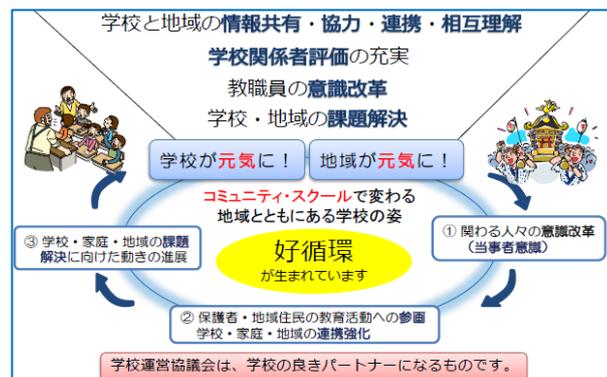


令和2年度学校運営協議会活動状況報告

令和2年度は学校運営協議会を2回実施しましたが、第1回(6月)は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、書面での実施とし、資料を配付した上で、御意見を募りました。第2回は2月18日に「交流及び共同学習」「地域防災」「学校評価」の3つを協議の柱とし、各委員の皆様から御意見やアドバイスを頂きました。

1 令和2年度松橋東支援学校運営協議会委員の皆様

池邊顕嗣朗様(熊本県こども総合療育センター 所長)
吉田好範様(熊本県くすのき園 園長)
松本一彌様(本校第10代校長)
池上秀昭様(宇城市立豊福小学校 校長)
沼田宗生様(熊本こすもす園 園長)
岩岡憲二様(豊福校区代表)
坂井孝治様(宇城市健康福祉部社会福祉課 課長)
浦上友紀様(宇城教育事務所 指導主事)
池田武明様(本校保護者 PTA 会長)



2 協議会から出された主な意見

第1回

- ・防災計画、避難所マニュアル等については、動員体制及び組織編成がきちんと計画してある。さらに、対策本部を中心に、班ごとの責任が明確化されており、想定される人の動きも分かって非常によくできていると思う。
- ・教材教具のデータベース化は特に頑張って欲しい。

第2回

- ・交流及び共同学習は、特設の時間だけではなく普段の様子がいいつでも見ることができるとよい。コロナについては正しい理解の上で正しく予防して取り組むとよい。
- ・令和2年度はコロナ禍で臨時休校措置を取ったこともあり、直接交流だけでなく、授業時間確保の観点から間接交流もほぼできなかった。来年度は、オンライン等を利用して間接的交流及び共同学習を実施したい。
- ・体験、感動、実感には直接交流が大切。オンラインとバランスよく取り組んで欲しい。
- ・病弱訪問教育は平均在籍日数が短く、学習の定着が難しいので、方法論を身につけるとよいのではないかと。学習の方法、ソーシャルトレーニング等など。「ライフストーリーワーク」を活用して、自己肯定感を高める方法もある。
- ・防災避難訓練は実施してみて改めて気づくことも多いので、実践を続けることが大切。職員の異動もあるので、年度の早い時期がよいのではないかと。
- ・ネット環境については、県立学校はGIGAスクール事業で整う予定。宇城市は整っているが、一斉に使用するとサーバーがダウンする。
- ・希望・こころ教室及び療育センター内でのネット環境は十分ではない。モバイルルーターの使用を考える必要がある。

3 令和3年度に向けての学校の取組

- ・教材教具のデータベース化を進めるとともに、次年度配付予定のタブレット等のICT機器を十分活用して、必要な時に必要な教材等を活用できるよう整備する。
- ・コロナ禍においても、オンラインでの交流を中心に実施方法を工夫することで、交流及び共同学習に継続的に取り組む。
- ・コロナ禍で本校の教育活動を直接ご覧いただく機会は来年度も限られると思われる。子どもたちの学習活動の様子や成果物等を公開する機会を可能な限り創出し、地域に開かれた学校づくりを推進する。